2024/November Vol.1

まちあるき
歴史・文化・人物編

「馬込」「池上」「洗足池」エリアの
まちあるき情報が満載！

MAISEN
馬池洗
TOKYO OTA CITY

馬池洗（まいせん）ってなに？

What's maisen?

古くから景勝の地として人々に親しまれてきた、馬込、池上、洗足池地域。
頭文字をとってこのエリアを「馬池洗(まいせん)」と呼んでいます。
大田区の中央部を占めるこの地域は、いまでも、緑、水、花、史跡など
多くの観光資源に恵まれています。

馬込 Magome

多くの作家に愛された
馬込文士村

古代、武蔵国の馬の産地だったこと。梶原景季の愛馬・膳黒がこの地で誕生し埋葬されたこと。九十九谷と呼ばれるほど狭い坂道が多かったため、狭い道を越えるという意味の言葉「まごめ」から「馬込」と名付けられたとされます。

馬込文士村の住人

全国から多くの人で賑わう！
お会式

池上 Ikegami

地名の由来は、千束(洗足)池の周辺に位置していたからという説や鎌倉時代の領主・池上宗仲公の姓からつけられたとする説などがあります。

歴史初心者でも楽しめる
勝海舟記念館

洗足池 Senzokuike

もともとは「千束の大池」といわれていたが、日蓮聖人が病気療養のため常陸の湯に向かう途中に池に立ち寄り足を洗ったことから「洗足池」と呼ばれるようになったといわれています。

監修：松本里美／三好順　編集・構成：目次ほたる

馬池洗まちあるき全体MAP

歩いて、食べて、学んで、たくさん楽しもう！

馬込文士村

まごめぶんしむら

作家の恋愛事情を覗き見？

馬込文士村で知る有名作家の素顔

大田区大森駅周辺から現在の馬込にかけて「馬込文士村（まごめぶんしむら）」と呼ばれるエリアには、かつて多くの作家・芸術家が生活していたそうです。大正時代から平成時代にかけて女性作家として第一線で活躍し、恋多き作家としても知られる宇野千代と、彼女の元夫である尾崎士郎も馬込文士村で暮らしていたとか。多くの作家に愛された馬込文士村での散策を通して、明治・昭和期に名を残した作家たちの意外な一面を覗き見してみましょう！

INFOMATION

馬込文士村資料展示室(大田区立山王会館)
03-3773-9216
〒143-0025 東京都大田区山王3-37-11
［入館時間］ 9:00～16:30
［休 館 日］ 年末年始／臨時休館日有
［入 館 料］ 無料

大田区立郷土博物館
03-3777-1070
〒143-0025 東京都大田区南馬込5-11-13
［入館時間］ 9:00～17:00
［休 館 日］ 月曜(祝祭日を除く)／年末年始／臨時休館日有
［入 館 料］ 無料

特集ページはこちら

2023年8月8日取材時情報

馬込文士村資料展示室(大田区立山王会館) ● JR「大森駅」西口徒歩10分
大田区立郷土博物館 ● 都営浅草線「西馬込駅」東口徒歩約7分

馬込文士村散策のみち

「馬込文士村 散策のみち」を進むと、八景天祖神社（はっけいてんそじんじゃ）に沿った階段の脇にある石垣で、文士村関連の展示物を発見。宇野千代、尾崎士郎をはじめとした、馬込文士村ゆかりの作家・芸術家たちの日常を描いたレリーフです。添えられた解説を読みながら、階段を上っていきます。

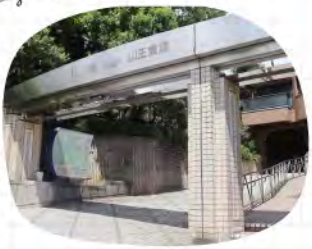
散策の途中には、馬込文士村ゆかりの作家・芸術家をピックアップして紹介したモニュメントがあります。知っている作家のものを見つけると、嬉しい気持ちに。知らない作家であれば、アイコンや人物紹介文から想像力を膨らませたり、活躍した時代背景や同時期の作家たちとの関係を調べてみたりしたくなりました。

馬込文士村で、大正・昭和時代へタイムスリップ！

おすすめスポット

馬込文士村資料展示室

作家たちのさまざまな人生がここに…



馬込文士村ゆかりの作家についてさらに興味が湧いて訪れたのは、馬込文士村資料展示室。資料を読むと、作家たちの人生が見えてきます。長い人生のうちの短期間を馬込文士村で過ごした作家もいれば、人生の最後まで馬込文士村で過ごす作家など、その人生はさまざまのようでした。

Check!

資料には、作家・芸術家たちの結婚・離婚などの恋愛遍歴や、実際に馬込文士村のどの辺りに住んでいたか、どのような理由で転居をしたかなどが赤裸々に記載されており、それぞれの人生が大森の土地と少しずつ結びついて、リアリティを増していきます。

おすすめスポット

郷土博物館

子供から大人まで楽しく学べる！

さらに馬込文士村ゆかりの作家・芸術家に関する情報を集めたくなって、大田区立郷土博物館へ。馬込文士村に関する展示室に進むと、大きなマップの模型が。馬込ゆかりの作家・芸術家のボタンを押すと、彼らが住んでいた場所が光る仕掛けになっています。

Check!

さまざまな展示の中でも特に印象的だったのが宇野千代直筆の書簡。「大正末期から昭和にかけてモダンガールの間で流行したボブヘアを日本で最初にしたのは私だ」といった内容からは、彼女の驕りと、当時のトレンドへの執着がうかがえます。資料を見るうちに、宇野千代をグッと身近に感じることができました。

テニスクラブ併設のオアシス

「Café de Lete」で至福のランチタイム

西馬込の住宅街で、周囲の風景からすっと浮かび上がるかのような存在感を放っているのが「Café de Lete（カフェドレテ）」。2023年1月、「Lete Tennis Club（レテ テニスクラブ）」併設のカフェとしてオープンしました。テニスクラブとカフェ、住居からなる複合施設の敷地全体を「庭」ととらえ、緑をたっぷりと設けた贅沢な空間は、「都会のオアシス」という形容がぴったり。別世界へといざなうような門をくぐる瞬間が、何ともいえないほど胸の高鳴りを感じさせます。

「南仏の太陽のようにみなさんを照らす場でありたい」という想いから、「小さなフランス」をイメージしてつくられた「Café de Lete」。フランスのエスプリを感じる緑豊かな空間に身を置けば、ここが都内であることを忘れてしまうスローな気分に。

南仏の風を感じる緑豊かな空間で、都会の喧騒を忘れる

辛いものが得意ではない人にもおすすめ！

「南仏」や「ガーデン」をコンセプトとした、緑の野菜やハーブ、オレンジをはじめとする果物を使ったメニューの数々。なかでもランチに人気なのが、ガーデンキーマカレーです。ヘルシーな雑穀米を使ったドライタイプのキーマカレーで、素材の甘みとほどよいスパイスの風味が後を引きます。

こだわりの水切りヨーグルトを使用！

スイーツメニューのイチオシが、白とオレンジのコントラストが目を引くクレームダンジュ。材料にフレッシュチーズを使用するのが一般的なクレームダンジュですが、こちらではオーナーのこだわりで水切りヨーグルトを使用。ヨーグルトの酸味とオレンジのソースが相性抜群で思わず頬がゆるみます。

INFOMATION

03-3772-6680
〒143-0026 東京都大田区西馬込2-26-7
［営業時間］11:00～19:00
日曜／10:00～19:00
［定 休 日］火曜
●都営浅草線「西馬込駅」南口徒歩5分

特集ページはこちら

2023年5月8日取材時情報

馬込でプレゼント探しへ

出会ったのは、老舗のサツマイモ菓子専門店「甘藷 生駒」でした

馬込駅から徒歩5分。散歩をしていると見つけたのは、「甘藷 生駒（かんしょいこま）」。サツマイモ菓子の専門店です。コンパクトなお店にどんどんと人が吸い込まれていく様子から、ここが人気店だとすぐにわかります。商品は、サツマイモを使ったスイーツのみという強気のラインナップ。スイーツに合わせて芋の品種を変えることで、最大限美味しくなるよう工夫が凝らされた逸品の数々は、お芋好きにはたまりません。

おすすめNo.1

看板商品は、大学いも。ゴロゴロ大きめにカットした芋を使用した一般的なものと、10円玉と同じくらいの薄さにスライスした「うすぎり」タイプのものが販売されています。人気の大学いもであっても大量に作り置きはせずに、売れた分だけ作り足していくのが「甘藷 生駒」のスタイル。

ご褒美ギフトに贈りたい、とっておきのお芋スイーツ

「大学いも 大」は、店頭で販売されている「タレ」で追いタレをすることで、ビジュアル・味ともに最高な美味しいお芋スイーツが完成！どちらかといえばさっぱりとした甘さのタレは、溺れるほどたっぷりかけてもしつこくないおいしさです。

「甘藷 生駒」という文字の並びの渋さとは裏腹に、新しくきれいなお店構え。「甘藷 生駒」には昭和5年に芋問屋として商売をスタートさせたという歴史があるそうです。お店のご主人からは、米俵ならぬ芋俵で芋を運んでいたというお話をうかがい、お店の歴史の深さを感じます。

INFOMATION

03-3774-2955
〒143-0021 東京都大田区北馬込2-27-11
【営業時間】 9:00～18:00
【定 休 日】 水曜
●都営浅草線「馬込駅」徒歩5分

特集ページはこちら

池上本門寺

IKEGAMIHONMONJI

池上本門寺のお会式へ！

万灯練行列（まんどうねりぎょうれつ）に圧倒され、心躍る秋の夜長を満喫

東京の寺町、池上に佇む池上本門寺。日蓮宗の名刹として知られるこの寺院は、日蓮宗の祖・日蓮聖人が入滅した地としても有名です。そんな池上本門寺で毎年10月11日～13日に行われるのが「お会式（おえしき）」。たくさんの屋台が立ち並び、境内だけでなく池上地域全体がお祭りムードに包まれます。

INFOMATION

03-3752-2331
〒146-8576 東京都大田区池上1-1-1
[拝観料] 無料
● 東急池上線「池上駅」徒歩10分

特集ページはこちら

2023年10月12日取材時情報

太鼓や笛が奏でるお囃子に合わせて纏(まとい)を振る先導、それに続いて万灯が統々と境内に向かって入っていくのが見えます。万灯練行列で纏が振られるようになったのは、町火消したちが参詣に訪れたことによるとか。祭り好きの江戸っ子たちがはりきって纏を振る様が想像され、花のお江戸の万灯練行列らしく風情が感じられました。

10月12日に行われる「万灯練行列(まんどうねりぎょうれつ)」も必見。万灯とは花飾りのついた提灯のようなもので、五重塔と桜を表現しています。日蓮聖人の入滅の際、10月だというのに桜の花が咲いたという言い伝えから飾られるようになったそうです。

池上本門寺を中心に、街全体がお祭りムードで賑やかに

お会式とは、鎌倉時代に仏教の一派である日蓮宗を開いた創始者、日蓮聖人の命日に行われる法要のこと。もとは各派宗祖の命日に行われる法要行事全般を指す言葉だったのが、池上本門寺のお会式が江戸時代からあまりに盛大だったため、お会式といえば日蓮聖人の命日＝10月13日を指す言葉として広まりました。

屋台のハシゴをするのもオススメ

屋台のバリエーションも実に豊富で、チャプチェやケバブなど各国料理の屋台があったり、LEDライトアップされた金魚すくいがあったり。今の屋台のトレンドをぎゅっと集めた、さながら屋台のエキスポのようです。

道の先まで屋台がズラリ!

池上駅から池上本門寺に続く旧参道「本門寺通り」に向かうと、チョコバナナ、たこ焼き、ベビーカステラなどなど、たくさんの屋台が並んでいました。ご家族連れ、仕事帰りのサラリーマン、学校帰りの高校生、地元の子供たちに混じって、浴衣姿で楽しむ方々も発見。

大堂から奥へ進むと…

本殿からはお題目が聞こえてくるのにつられて「日蓮聖人御廟所」へ。こちらは、正月とお会式の期間のみご開帳となり、普段は見ることができない中を拝観することができます。お坊さんたちは、交代で一晩中お題目を唱えられるそうです。

池上本門寺のお参り後は、

池田屋で「久寿餅」をお土産に

池上本門寺の参道にある「池田屋」。立派な店構えに長い歴史を感じつつも、ふらっと気軽に立ち寄りやすい風情があります。よく見ると店頭に掲げられた「くず餅」の字が、一般的な「葛餅」ではなく、「久寿餅」という字であることに気づきました。店主さんに話を聞くと、葛粉から作る関西の「葛餅」に対し、関東では小麦粉を発酵させて作る「久寿餅」が一般的なんだとか。名前から縁起が良い池上の名物スイーツです。

池上に訪れたら一度は買いたい名物スイーツ「久寿餅」

シンプルな「きなこかけ」の久寿餅を注文。きなこの甘くホッとする香りが鼻腔をくすぐり、口の中にじゅわっと湧いてくるものがあったほど。ぷるんぷるんの食感の久寿餅が絶妙で、程よい弾力がありながら、つるっと喉ごしが気持ちいい。きなこの香ばしさ、黒蜜の濃厚な甘さも、久寿餅の味わいをさらに引き立ててくれます。

「池田屋」は、店主さんの気さくな人柄も魅力の1つ。「お客さんはご年配の方が多いですね。でも最近、若いカップルの方も増えてきました」そんな話を聞いているうちにも、お土産用の久寿餅を買いに、お客さんが次々に訪れました。

INFOMATION

03-3751-0154
〒146-0082 東京都大田区池上4-24-1
［営業時間］お土産販売コーナー／9:00～18:00
店内喫茶コーナー／10:00～17:00
［定 休 日］不定休
●東急池上線「池上駅」徒歩6分

特集ページはこちら

2023年6月7日取材時情報

昭和レトロな

おしゃれ空間でほっと一息
「古民家カフェ 蓮月」

住宅街に突如現れる趣あふれる「古民家カフェ 蓮月」。重厚感のある門構えとは裏腹に、一歩踏み入れれば昭和レトロな家具や小物がキュートな空間に驚きます。以前は「蓮月庵」という蕎麦屋さんだったというこちらの建物は、元古着屋さんの店長が引き継ぎ、遊び心あふれるおしゃれな空間を生み出しました。店内だけでなく、カジュアルなテラス席もあり、晴れた日は古民家を眺めながら食事をするのもおすすめです。

おすすめNo.1

サラダが添えられているのが嬉しい「クロックムッシュプレート」。古民家で「洋」テイストのメニューを提供している理由を聞いてみたところ、古民家カフェを運営していくなかで、コーヒーやカフェメニューを作る技術のある人と出会い、学ぶことになったのがきっかけだったのだそう。

昭和レトロと和モダン、歴史と現代とが交差する古民家カフェ

店長おすすめの窓際席には、格子窓の隙間から自然光がたっぷり差し込みます。メニュー表でつい目が止まって注文した「クリームソーダ青りんご」。色鮮やかな青りんごソーダに、窓から入ってきた光が反射してキラキラと光っていました。

外観は、趣ある佇まいに圧倒されてしまいそうな立派な古民家。しかし、店内に足を踏み入れると、昭和レトロに遊び心を加えたようなオシャレな空間が……！奥のお庭まで続く開放感のあるスペースと、小洒落たインテリア雑貨の数々による独特の空間デザインは、もともと古着屋で働いていたという店長のセンスが光っています。

INFOMATION

03-6410-5469
〒146-0082 東京都大田区池上2-20-11
[営業時間] 平日／11:30〜18:00
土曜・日曜・祝日／11:00〜18:00
※ラストオーダー 17:30
[定 休 日] 不定休
●東急池上線「池上駅」徒歩8分

特集ページはこちら

2023年12月21日取材時情報

勝海舟記念館

おしゃれな
ネオゴシックスタイルの
外観が目印！

歴史初心者
でも楽しめる

勝海舟と洗足池との繋がりを学ぶ。

大田区南千束エリアにある「洗足池」の地を愛した歴史上の偉人がいます。それが、「江戸無血開城」を成し遂げた「勝海舟」。かつて洗足池のほど近くに別荘を構えたという勝海舟について、彼の生涯やその考え方に至るまでを学ぶことができるのが、「勝海舟記念館」です。現在、記念館となっている「旧清明文庫(きゅうせいめいぶんこ)」は、ヨーロッパ建築を思わせるネオゴシックスタイルの外観で、建築好きにも必見です！

INFOMATION

03-6425-7608
〒145-0063 東京都大田区南千束2-3-1
[入館時間] 10:00～18:00(入館は17:30分まで)
[休 館 日] 毎週月曜(祝日の場合は翌日)、
年末年始、臨時休館日
●東急池上線「洗足池駅」徒歩6分

特集ページはこちら

2023年9月29日取材時情報

洗足池の地を愛した、「勝海舟」の生涯に触れる

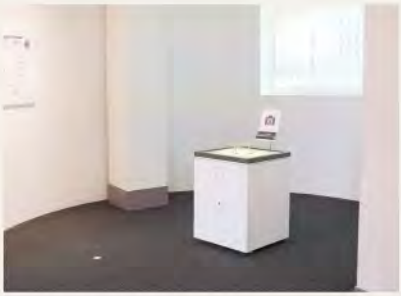
海舟の等身大パネルに注目

自動ドアが開いた先にある吹き抜けの通路では、勝海舟の若き日を描いた等身大パネル（右の写真）がお出迎してくれました。
初めて勝海舟の顔をまじまじと見ると、歴史の教科書で見たときよりもずっとカッコよく見えてきます。

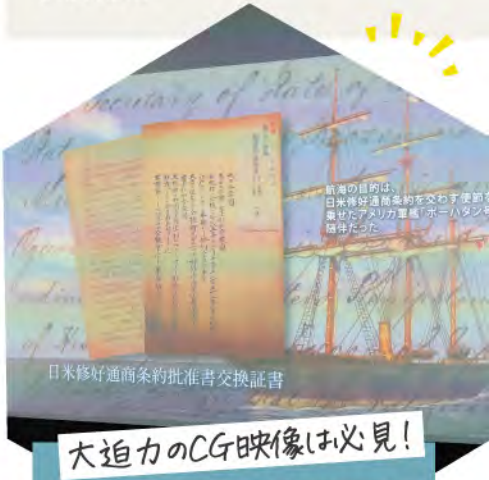
年表や実物展示、説明資料などをもとに、勝海舟の波乱万丈な人生を学べるのが「海舟クロニクル」。年表からは彼が晩年に至るまで多くの人に慕われていたことがわかり、人望と生命力に恵まれた人物だったことがうかがえます。また、実際に使用された航海用具などのさまざまな展示物を見ることができます。

大型モニターで映像展示！

アールデコ調にデザインされた内装を楽しみながら、2階へ。かつて講堂として使われていた部屋では、大型モニターで映像展示を見ることができます。貧しい生い立ちを経て、「蘭学」との出会いによって学問の道に目覚めた勝海舟。その生き様に勇気をもらいました。



1階の展示室では、勝海舟の生涯を貴重な資料と共にたどることができます。部屋の中心にある展示は「海舟ブレイン」。白い壁に映し出された映像で、勝海舟が生前残した言葉や文章を読むことができます。幕末を牽引した彼の言葉は現代を生きる私たちにも新たな発見を与えてくれます。



大迫力のCG映像は必見！

大迫力のCG映像で勝海舟の大航海を体感できる「時の部屋」は、勝海舟記念館の目玉展示の1つ。部屋の壁3面が大型スクリーンになっており、CG映像が映し出されます。勝海舟が渡米した際の様子をCG映像とともに学ぶことができ、手の込んだ演出に思わず息を呑みました。

記念館の裏には「勝海舟夫妻の墓」があります。勝海舟の妻・民子（たみこ）は当初、青山墓地に葬られたそうですが、現在はこうして2人並んで洗足池の畔で眠っています。すぐ隣にあるのは、勝海舟が西郷隆盛をいたみ建てた「西郷南州留魂詩碑」です。

気ままなソロ活中に、

洗足池商店街で見つけた「cafe634」でカフェランチ

洗足池駅の南側、洗足池商店街にある「cafe634（カフェムサシ）」。人の流れや商店街のざわめきを感じつつ、店内に入るとほっと心が落ち着くような絶妙なバランス感覚のお店には、いつもゆったりとした時間が流れています。オーナーの『街のコーヒー屋で、食堂で、おやつ屋でありたい』という想いから、訪れた人がそれぞれのスタイルで楽しめるよう、さまざまなメニューが用意されているのだそう。思い思いの過ごし方ができる癒やしの空間です。

元々は10年にわたって東銀座のオフィス街で営業を続けていたというオーナー。「人が住む場所でやってみたい」と心境の変化があったことから、次の場所として洗足池を選んだそうです。「お客様自身のお好きな解釈で使ってほしい」と語ってくれたオーナーの言葉からは、街への愛が伝わってきました。

街のざわめきに、そっと耳を傾ける心落ち着く時間をここで

毎日通いたくなる人気の“本日のプレート”！

日替わりメニューが人気の「本日のプレート（ドリンク付き）」。この日のメインは、若鶏の唐揚げネギソースと枝豆とジャガイモのコロッケ塩麹添え。若鶏の唐揚げのほんのりピリ辛なソースや、コロッケに乗った塩麹など、一般的な味付けとは少し異なるアレンジが楽しいメニューです。

思わず撮りたくなるフォトジェニックなアラモード

「プリンアラモード」は、色とりどりのフルーツがあしらわれ、ふんわりした生クリームが乗った姿が、つい写真に収めたくなるかわいさ。トレンドのかためプリンかと思いきや、モソモソとツルツルのちょうど間くらいの食感で、するりと完食してしまう食べやすさとおいしさです。

INFOMATION

03-3727-6368
〒145-0064 東京都大田区上池台2-31-11
[営業時間] 火曜／11:00～16:00
水曜～土曜／9:00～18:00
[定 休 日] 日曜・月曜
●東急池上線「洗足池駅」徒歩2分

特集ページはこちら

2023年6月30日取材時情報

“幸せな香り”がするパン屋さん

「Boulangerie Towaie」

洗足池駅のすぐ近くに、勝海舟にまつわるご当地グルメ「勝バーガー」を売るパン屋さんがあります。それが、「Boulangerie Towaie（ブーランジェリートワイエ）」。目印は、ピンクのチェック柄が特徴的な看板です。ほら、扉を開けた瞬間に、香ばしいパンの香りが漂ってきましたよ！

勝海舟が暮らした土地・洗足池で味わうご当地グルメ

おすすめNo.1

さっそくかじりついてみると、自家製の分厚いロースとんかつにたっぷりと染み込んだ甘じょっぱい蒲焼のタレの味とマヨネーズと、山椒の風味が口の中に広がる、ちょっと大人な味付け。モチモチのパンとキャベツとレタスの食感も相まって、夢中になって食べてしまいました。

パンの置かれた棚に、「勝バーガー」を発見！勝海舟の好物だったという「うなぎの蒲焼」から着想を得て、タレの味にぴったりな山椒を加えたという「勝バーガー」は子どもから大人まで大人気の商品なのだとか。パンの上には、勝海舟を表す「勝」の字が焼印されていて、インパクト大。

勝海舟の縁の地である洗足池だからこそ、せっかくならお客さんに喜んでもらえるような名物グルメを作りたいと店主が考案したのが、「勝バーガー」だったのだそう。地域愛あふれる逸品です。

INFOMATION

03-6421-8825
〒145-0064 東京都大田区上池台2-30-1
[営業時間]
水曜・木曜・金曜／8:00～19:00
土曜・日曜／8:00～18:00
[定 休 日] 月曜・火曜
●東急池上線「洗足池駅」徒歩1分

特集ページはこちら

2023年9月29日取材時情報

一般社団法人 大田観光協会

03-3734-0202

〒144-0035 大田区南蒲田1-20-20 大田区産業プラザ2階

公式サイト　Instagram　X(旧Twitter)　facebook